

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	たむら地方児童発達支援センター（放課後等デイサービス）		
○保護者評価実施期間	令和 7年 1月 7日		～ 令和 7年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	48名	(回答者数) 42名
○従業者評価実施期間	令和 7年 1月 7日		～ 令和 7年 1月 21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7年 2月 3日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	自立を促進する体験活動の充実	例えば、調理実習では、調理手順が簡単で分かりやすいメニューを設定しています。最後に今日使った材料を再度紹介し購入場所もお伝える事で、自宅でも気軽に取り組みやすく、自立へと繋がるよう配慮しています。	調理実習の手順や食材の紹介を保護者様にお便りで配布する事で、自宅でもより取り組みやすくなり、生活能力の向上や自立へと繋げる事が出来るのではないかと思います。
2	切れ目のない支援を提供できる	児童発達支援・放課後等デイサービスの多機能型事業所なので、就学し児童発達支援が終了となっても、同じ場所で、同じ職員が引き続き放課後等デイサービスの支援を行う事が出来ます。	就学前のお子さんの状況も把握しているので、環境の変化によるストレス負荷を察知し、お子さんの状況に合わせて課題の調整や休憩等を適宜組み合わせ合わせて支援を行います。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	情報発信の力が弱い	アンケート結果にもありましたが、研修会実施やマニュアル関係の周知、訓練の状況等の項目に「分からない」「どちらともいえない」の回答が多く見られました。課題予定表へ記載していましたが、見落としがたり、伝わりにくいのではないかと感じました。	事業所にスマホを用意し、LINE等のメッセージアプリを導入する事で、お便りや研修案内等を画像に落とし込んで送信したり、その日の活動状況の写真を添付する事で、お子さんの利用状況を視覚的にも伝える事が出来ます。また、緊急時の連絡も1件ずつ電話連絡せず、一斉送信を活用したスムーズな連絡手段になると考えます。
2	送迎ニーズへの対応力	9割の保護者様が送迎をご希望されており、事業所として田村地区の多くの学校からの利用を受け入れていきたいと考えております。しかし、田村地区全体を1度の送迎で回る事がとても難しく、曜日毎に送迎の方面が固定されています。それにより、保護者様の希望する曜日と送迎ルートが合わないという事が生じています。	新年度の送迎ルートの見直しの際に、出来る限り近いルートを集め、1台で何カ所かお迎え場所を巡回し、出来る限り相乗りできるよう工夫をする。